

Mid KYUSHU 共創サポーターズ
令和7年度中堅企業経営セミナー

企業事例紹介

「リサイクル産業における新事業開拓の取り組みについて」

(株)星山商店 取締役 E L V 事業部長
森島 哲也

1. 自己紹介
2. ELVとAR
3. 星山商店の概要
4. 自動車リサイクルの歴史
5. 弊社における E L V 事業の歴史
6. E L V 事業を取り巻く環境の変化
7. 現在行っている新規事業開拓の取り組み
8. おわりに

1. 自己紹介

出身：益城町

**略歴：自動車およびオートバイの仕事に携わりながら、
2006年星山商店入社
営業職を経て、2015年事業部部長
2020年取締役を拝命**

**趣味：車、オートバイ、レアな古物収集
サッカー観戦、動物**

2. ELVとAR

ELV: End-of-Life Vehicle

AR: Automobile Ricycle

3. 星山商店の概要

会社の商号：株式会社 星山商店

本社所在地：熊本県熊本市北区武蔵ヶ丘 9丁目 5-76

創業：昭和46年4月

資本金：90,000千円

売上高：198億円（令和5年8月決算）

従業員：348名グループ総員393名（令和6年1月現在）

関連会社：(株)龍生興産 (株)ホシヤマ (株)HR コーポレーション
トラックテックホシヤマ（株式会社明星）

業種：鉄屑加工販売・非鉄金属加工販売 建造物解体
産業・一般廃棄物収集運搬及び中間処理
自動車リサイクル・部品販売・中古車販売

月間取扱量：鉄屑月間平均23,000t

その他非鉄金属2,200t（銅・アルミニウム・ステンレス類）

※詳細は弊社ホームページに掲載

4. 自動車リサイクルの歴史

- ・ 1923年 関東大震災 中古パーツのリサイクルが始まる
- ・ 高度成長期 自動車の大量生産と消費が進み、廃車も増加
- ・ 廃車から鉄スクラップを回収する技術が生まれる 解体車の有価化
- ・ 1985年 円高、鉄スクラップ価格暴落
廃車の処理費用が価値を上回る「逆有償化」現象
- ・ 鉄スクラップ価格の下落や最終処分場の逼迫により、
廃車の不法投棄や不適正処理が社会問題に
- ・ 不法投棄問題 廃車の有害物質流出による土壌・地下水汚染、
オゾン層破壊が地球温暖化に影響
- ・ 2002年「使用済自動車の再資源化等に関する法律」が制定
- ・ 2005年1月1日から自動車リサイクル法 施行

＜現在のシステム＞

- ・ 自動車ユーザー、メーカー、関連事業者等の役割が法律で定められた
- ・ フロン、エアバッグ、シュレッダーダストの引取と適正処理の義務化
- ・ 自動車リサイクル法の施行によりリサイクル率が大幅に向上

5. 弊社における E L V 事業の立ち上げ

- ・ 2004年 E L V 事業部を設立
- ・ 創業メンバー 10名
- ・ 設立当初の自動車解体設備は『最新』だった
- ・ リサイクルパーツ販売事業をスタート
- ・ トラック部門設立（パーツ、貿易、中古車）
- ・ 2018年 中古トラック販売 トラックテック設立
- ・ 現在の E L V 事業部の構成
（全53名、内20歳～30歳台17名、内外国人6名）

6. ELV事業を取り巻く環境の変化

- ・スクラップ車の高騰
- ・円高、グローバル化、オークション価格の高騰
- ・仕入れチャンネルの変化
- ・パーツリサイクルの必要性、貿易事業
- ・人材育成 仕事に関する若い人たちの考え方の変化
- ・外国人採用（求人しても日本人の応募が無い）
- ・年間休日日数を100日から110日に

7. 現在行っている新規事業開拓の取り組み

- ・ E L Vのリサイクル率を限りなく 1 0 0 %に近付けるために
- ・ A S R、廃プラスチックの再資源化
- ・ 大手商社のタイアップの元、県内先駆者としての取り組み

8. 終わりに

今回のセミナーは、中堅企業の皆様の更なるご成長を通して、地域経済の活力向上に資することが目的とお聞きしております。

短い時間でしたが、本日の私のお話が、皆様方の会社経営の一助となれば幸いです。

皆様のご清聴に心から感謝申し上げます。

皆様方の益々のご発展とご活躍を心よりご祈念申し上げます。